農業体験学習を通じて食と農の大切さを学ぶ

▲ ジャガイモの植え方を学ぶ児童ら

能代市立淳城南小学校の農業体験学習が４月28日に開講され、ＪＡ施設や育苗ハウス、野菜集出荷所を見学したほか、野菜の植え方について講習会が行われました。同校の体験学習は植付けから収穫までの年４回実施しています。

講習会では能代市農業技術センターの職員を講師に招き、ジャガイモの植え方などについて説明を受けました。児童らは普段食べている野菜がどのように作られるのかを、真剣なまなざしで聞いていました。そのあと近くの畑で実際にジャガイモの植付けを体験。児童らはいきいきと、初めての植付け作業を楽しんでいました。

向能代小学校の児童らが田植えの体験学習を行う

▲ 泥だらけになりながらも懸命に苗を植える児童ら

５月２４日にＪＡ青年部北支部による農業体験学習が向能代地区の圃場で開かれ、能代市向能代小学校の５年生７０名が田植えの体験学習を行いました。

向能代小学校では毎年５年生を対象に、田植えから収穫作業までを体験させる食農教育を行っています。

この日は晴天に恵まれ、児童らは青年部員の指導のもと田植えを開始。ぬかるむ泥に足を取られながらも、手際よく苗を植えていきました。体験した児童は「田植えは難しかったけど、とっても楽しかったです。自分の家の田植えも手伝いたいと思います。」と話していました。

ＪＡ管内で発生するカドミウム米削減を目指す

▲ 長香穀を実証圃に植えつける

ＪＡでは管内のカドミウム米発生を防ぐため、中干し後の湛水管理の徹底を呼び掛けるなど、行政などと連携して様々な対策を行っています。

その一つとして、カドミウムを吸収する“長香穀”というイネを植えて、土壌の健全化を図る対策が５月２７日に、能代市と藤里町の２つの実証圃にて行われました。この対策は平成２１年から平成２５年までの５年間、長香穀を実証圃に植えて土壌内のカドミウム量の変化を検証し、今後のカドミウム米発生予防に役立てられます。

収穫時期に向けて病害虫の防除徹底を呼びかける

▲ 生育状況を見て、今後の管理を検討した

ＪＡキャベツ部会（福司金治郎部会長）によるキャベツ現地研修会が５月２７日に開かれ、生産者や山本地域振興局農林部農業振興普及課、ＪＡ職員らが各生産者の圃場を巡回して、生育状況の確認を行いました。

約１５名が参加した研修会では、普及課担当者から「気温の上昇と共に生育は回復してきているが、今年は害虫であるコナガが多く発生しているため、気温が上昇して卵がふ化する前の防除が重要」と注意を呼び掛け、生産者らは収穫を前に、今後の対応策について意見を交換し合いました。